令和元年度第１回上越市女性サポートセンター運営委員会　会議録

１　会議名

令和元年度第 1 回上越市女性サポートセンター運営委員会

２　議題（公開・非公開の別）

(1)　上越市女性サポートセンターについて（公開）

(2)　平成 30 年度事業実施報告について（公開）

(3)　令和元年度事業計画について（公開）

(4)　その他（公開）

３　開催日時

令和元年 7 月 10 日（水）午後 1 時 55 分～3 時 15 分

４　開催場所

高田公園オーレンプラザ　研修室

５　傍聴人の数

0 人

６　非公開の理由

なし

７　出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委　員：片所真理子（副委員長）、齊京貴子（委員長）、大國祐子、竹山貞子、五十嵐郁代

・事務局：産業政策課佐藤課長、水澤副課長、長谷川主事、関根雇用政策専門員

8　発言の内容

⑴　上越市女性サポートセンターについて

※事務局より一括説明

○質疑・意見等

竹山委員：運営委員会は以前2回あったが、今は1回になっている。昨年実施した事業の報告がなく新年度の運営委員会を迎えている。最初に昨年度の事業の実施報告があったほうがよいのではないか。

事務局：　30年度の事業実施報告は後ほど行う。説明は後で担当からまとめてすることでよいか。

竹山委員：教育委員会から担当が産業政策課になり様変わりしているので、早めに説明をしたほうがよい。

事務局：　後ほど詳しく説明を行うことでお願いしたい。

⑵　平成30年度事業実施報告について

※事務局より一括説明

○質疑・意見等

齊京委員長：以前教育委員会で運営委員会が行われていた時は、公民館事業と産業政策で行っている事業のすみわけが分かりにくかった。今は公民館事業と切り離して議論ができる場ができたのでよかったと思っている。

竹山委員：　作法、食事のマナー等女性として身につけておきたい講座はいつどこでやっているか聞かれることがある。また、産業政策課でやるセミナーはいいことをやっているので、今年度の事業内容を決める前に、委員会があれば、助言ができる。去年の良かった点、悪かった点を発言する場がない。今年の事業が決まる前に運営委員会があるといいと思う。

事務局：　運営委員会は年度が終わる前に、その年度の事業の報告をして、それに対する意見を頂き、次年度に活かすというやり方が取れればよいが、年度の初めのほうに前年度の事業報告をし、皆さんから意見を頂きながら今年度の事業に活かすというやり方をとっている。この場で頂い

た意見をこれから行う事業に活かしていきたい。

齊京委員長：今回この委員会の意見を事業に活かしていただけるとのことで、今年度の事業に活かせないようであれば、2 年間の委員任期期間中の事業で反映してもらいたい。

五十嵐委員：他の担当課と連携したほうがいい内容も実施されているようだが、その連携の中で、事業に反映されるのか。資料 4 にも他の担当課と連携整理がされているが、去年行った事業の結果として、今後の連携が書かれているのか聞きたい。

事務局：　他の担当課と連携を行っているが、どこかの部署が行っている事業がそこで完結しているわけではなく、実際にセミナーの場には他の課の職員が同席したり、資料等で情報共有を行っている。

齊京委員長：ワーク・ライフ・バランスについては、知り合いの民間管理職クラスの人に聞いてみたが、言葉を知らなかった。内容はなんとなくわかっていても、ワーク・ライフ・バランスという言葉はまだ浸透していないと感じた。

事務局：　そういった部分もあり、昨年度ワーク・ライフ・バランスの基本を学ぶセミナーを実施した。

⑶　令和元年度事業計画について

※事務局より一括説明

〇質疑・意見等

片所委員：　働き方改革などの勉強するセミナーが多いと感じた。女性進出、女性が働くための支援ということであれば、具体的な資格を取るための支援等、直接仕事に結び付くような講座のほうが興味を持たれるのではないかと思った。産業政策課で女性の働き方を支援するテーマに絞った形をとると、様々な形の講座は実施できないと思うので、昨年実施した内容を具体的にすると興味を持たれるのではないかと思う。

また、働き方改革といっても、そんな理想的な職場は多くはない。具体的に資格を取るような講座のほうが受講しようと思う人がいると思

う。

竹山委員：　女性サポートセンターとしての位置づけがあるオーレンプラザで事業を実施する予定がない。オーレンプラザを利用したほうがよいのではないか。

五十嵐委員：女性の働き方に関して言えば、女性を応援する仕組みもそうだが、企業の意識を変えることも大事であり、行政側の施策を変えることも大事であると思う。その３つを啓発していける事業を行えるといいと思うが、女性を応援する労働者の福祉の観点で、例えば独身でも介護をしなければいけない状況に置かれていて、そのため仕事が辞められず、結婚もできないという人がいる。そういう方向けに介護が安心してできて、仕事も結婚もできるといった今後の高齢化が進む中での女性のサポートも必要になってくると感じている。

事務局：　女性自身の取り組み方、本人の問題については女性限定でセミナーや資格取得の講座をやることもあると思うが、今回の事業計画のセミナーは、女性限定ではなく、事業主や男性の参加も可能としている。女性が仕事をしやすい環境をつくるためには、女性だけでは取り組めないので、周りを取り巻く事業主などに考えてもらうセミナーを考えている。委員の皆さんがおっしゃるとおり、女性の皆さんが自ら取り組まなければ解決できない取組も残っていると思うし、どういった形で取り組んでいけばいいか、具体的な意見を頂きたい。

五十嵐委員：資格取得の話も出たが、働き方の中でも企業に勤めるだけでなく、様々な働き方があると思う。自分の趣味や特技を仕事にしている人もいると思う。いろいろな働き方の中で女性の能力を発揮するやり方もあるし、家族とのライフサイクルをうまくバランスをとっている方もいる。子育てをしている方や、これから何か取り組みたいと思っている方の背中を押すような講座があればいいのかなと思う。

事務局：　一人で悩んでいる人に対して例えば介護をテーマとして実態を意見交換することもいいかもしれない。

五十嵐委員：資料３にも男性が優遇されているかどうかということや、働きやすい

環境づくりのアンケート調査や男女共同参画推進センターで行っている市民の意識調査などヒントになると思うので、ヒントをうまく活かして、いい事例で背中を押せるような事業があればいいと思う。男女共同参画推進センターも啓発に向けて意識調査をうまく活用できていない部分もあるので、産業政策課と連携してやっていけるとさらにいいと感じた。

竹山委員：　昨年、男女共同参画推進センターで、「突然家族が倒れたらその時男性はどうする」というタイトルで講座を開催した。男性が 50 名以上集まり、男性もいろいろと考えていることが分かった。事業計画を見ると昨年度と似たようなものが多い。来る人が限られてくるし、もう一歩進んで、市民のために何をしたらいいか、広くたくさん集まるような講座を考えてほしいと考えている。

五十嵐委員：先ほど齊京委員長もワーク・ライフ・バランスという言葉を知らない人がたくさんいると言っていたが、企業の事業主にもワーク・ライフ・バランスについて深く知っていただきたいし、また、いろんな方から話を聞いてもらいたいことも考えると、もう少し視点を変えることも必要なのではないかと思う。

定員が 50 名ではなく、もう少し多くてもよいのではないか。人数が多すぎるとディスカッションする機会がなくなるので、話し合う場面も設定したほうがよいと思う。

竹山委員：　年 1 回、参加者の多い一大イベントを開いてはどうか。

大國委員：　平成時代の今の夫婦では、お父さんが保育園の送り迎えもやるし、お父さんもかかわらざるを得ない。男性を対象とする講座も作らないといけないのではないか。

竹山委員：　男女共同参画推進センターの講座で夫婦で出席する講座を行い、20 組ほどの参加があったが、すべて夫婦で妻と夫の意見が食い違っていた。

大國委員：　講座の進め方もワークショップ形式にすると、参加者が自分を振り返って認識を新たにすることができる。

齊京委員長：平成世代の夫婦は男も女も関係なく家事ができている。昭和世代の意

識改革をしなければならない。

竹山委員：　どんな人たちがどんなことで困っていて、どういう講座をやれば喜ばれるのか、検討して講座を行ってほしい。

事務局:　話をお聞きして、ターゲットを絞って取組を行うことが必要と感じた。ターゲットを絞ることによって意識を持ってもらうこともできると思うので、検討していきたい。皆さんから改めてご意見を頂きながら今年度の事業内容を決めていきたい。

⑷　その他

※事務局より一括説明
質疑・意見等なし

9　問合せ先

上越市産業観光交流部産業政策課　TEL：025-526-5111

E-mail：sangyou@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。